

「持続可能な社会づくり」に向けた資質・能力を育む

カリキュラム・マネジメントの研究

—「グローバル」な視点を育成する単元開発と実践・評価—

勝山 優子 高度教職開発コース

キーワード：持続可能な社会づくり，グローバル，資質・能力，カリキュラム・マネジメント

1. 問題の所在と目的

現在，日本の人口減少による少子高齢化は大きな社会問題の一つと言われており，増田（2015）によると，20年後には全国の半数以上の自治体が「消滅可能性都市」に該当するという。所属校が位置する長野県飯山市も雇用の場の喪失や学校の統廃合等により，人口流出という問題を抱えているが，地域住民も学校も将来的な地域消滅という視点が喫緊の課題とまでは至っていない。そこで「持続可能な社会づくり」をめざし学校教育が担えることとして，地域に住む子ども達に郷土愛を育むことが重要なのではないかと考えた。

他地域に目を向けてみると，同じような状況下でありながら地域住民が学校や自治体とともに積極的にまちづくりを行い，持続可能な社会づくりに向けて一丸となっている事例があった。調査の中で郷土愛を根底にしなが，他地域や他国といった様々な方面にも視野を広げ，地域の実態に合わせたものを生み出していく姿に出会った。今後の「持続可能な社会づくり」に対し，郷土愛だけでなくローカルとグローバルを兼備した「グローバル」な視点が，学校教育としても必要な視点ではないかと考えを改めるに至った。

そこで，「グローバル」な視点に基づく「持続可能な社会づくり」に向けた資質・能力を育むための単元開発及び実践・評価をカリキュラム・マネジメントの視点で行い，資質・能力の高まりや有効な授業づくりの着眼点を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 研究の方法

「まちづくり」や「グローバル」な視点を取り入れた自治体，先進校に調査を行い，「グローバル」な視点の育成を通じて目指したい資質・能力を明らかにする。その資質・能力を育成するための単元開発と実践を行い，資質・能力の高まりや有効な授業づくりの着眼点についてカリキュラム・マネジメントの視点で評価と分析を行う。

3. 調査活動

飯山市や同じ長野県の白馬村および大町市，広島県福山市，岡山県新庄村，スウェーデン Bräcke，イタリア Reggio Emilia で現地調査を行い，北海道音威子府村，島根県海士町に

については資料収集にて調査を行った。その中で導き出した言葉の定義を行った。

3.1 「持続可能な社会づくり」とは

調査から、まちづくりの根本が人材育成を掲げている地域が多く、地域に残っても他地域へ行っても社会に貢献できる人材を育成するという視点に立っている。そこで、本研究における「持続可能な社会づくり」を「社会に対し自分なりの立場で貢献する態度と能力を持ち合わせた人材を育成すること」と定義した。

3.2 「グローバル」とは

調査地域の人材育成の視点は、地域を見つめ郷土愛を育むとともに他地域や他国へと視野を広げ、再び地域を見つめ直すことを掲げ実践している地域が多かった。本研究では「グローバル」を「地域を愛する心をもつだけでなく、地域の課題を国際社会に広げて考え、持続可能な社会づくりに貢献していく力」と定義した。

3.3 「グローバル」な視点の育成を通じて目指したい3つの資質・能力

調査地の「グローバル」に関わるキーワードから、表1で示すように本研究における「グローバル」に関わる資質・能力を明らかにした。

表1「グローバル」な視点に関わる3つの資質・能力

クリティカルな思考力	事象や情報を疑問を持たずに受容することなく、ローカルな視点からより広角なグローバルな視点へと広げ、様々な方面から考察した上で最適解を導き出そうとする力
多文化共生	多様な文化背景をもつ身近な人や地域・世界の人の思いをくみ取り、合意形成しようとする態度
コミュニケーション力	身近な人や地域・世界の人に対して自分の思いを伝え合う力

また、「グローバル」な視点と3つの資質・能力の関係を図1のように表した。3つの資質・能力が支えとなりながら、ローカルからグローバルへと螺旋状に拡大し、この幅が広がるほど「グローバル」な視点が拡大していき、3つの資質・能力も高まっていくと考えた。

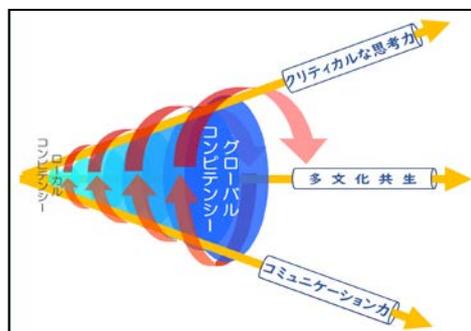


図1 本研究における「グローバル」な視点と3つの資質・能力の関係(筆者作成)

4. 単元開発と実践・評価

4.1 単元開発

単元開発は大きく3回に区切り、実践結果をもとに改善を加えていった(表2)。単元開発①では他地域との比較に終わったが、単元開発②では共通性を見出すことで他地域とのつながりが意識できるようになった。単元開発③は教科等横断的な視点も考えて構想した。

4.2 単元開発における分析

(1) 多様性の中の共通性を見出す学習展開

学習展開に他地域を取り入れ他者との意見交流の場を設定することで、子どもが他者との考えを比較し問いを再構築していった。また、子どもが地域に発信しレスポンスをもらうことが、地域とのつながりを感じ思いを伝える自信につながった。地域とのつながりを意識するには地域間の共通性を見出すことが必要であり、この共通性とは地域コミュニテ

イにおける願い・思いといったメンタル的な部分を表すと考える。

表2 カリキュラム・マネジメントの視点に立った単元開発

	【単元名】他地域の視点を取り入れた主な単元の流れ	他地域との共通性	地域に向けた活動他教科の関連
単元開発①	【4学年「雪と飯山」(社会科)】 地域のスキー場とゆきまつりの現状と課題 → 他地域のアイデア → 他国のスキー場事情		調べたアイデアをスキー場やゆきまつりの方々に伝えよう
単元開発②	【3学年「常盤の道祖神」(社会科)】 地域の道祖神の様子 → 他地域のどんど焼き → 他国の伝統行事	どこでも厄を払って健康で幸せに暮らしたいという願いは同じ	
	【5学年「私たちの千曲川」(社会科)】 地域の千曲川 → 隣県の信濃川 → 日本海沿岸の国々の取組	川を通して人々の暮らしはつながっている。身近な水資源を守り続けたい願いは同じ	
単元開発③	【6学年「集落サロンを知らう」(総合)】 地域のサロン → 他地域の工夫や努力 → 他国の高齢化社会の様子	高齢者の健康を地域のみみんなで守ろうという願いは同じ	自分たちも地域のサロンにアイデアを提供しよう
	【4学年「くらしを守る」(社会科)】 地域の交番 → 日本発祥の交番制度 → ブラジルが交番制度導入	地域と協力して安全を守りたいという願いは同じ	自分たちが地域の安全に協力できる「交通安全全ポスター」ことをしよう
	【6学年「墨絵のとびら」(図工)】 地域講師の存在 ← 日本で導入 ← 中国の墨絵	昔も今も誰でも美しいと感じる心は同じ	自分たちも体験しよう 国語「鳥獣戯画を読む」 地域に披露しよう

(2) 思考ツールを活用した他者との対話の場

学習シートをはじめとした思考ツールを対話場面で活用すると、3つの資質・能力の高まりに効果的に働くことが分かった。思考ツールを囲んだ対話から新たな視点を発見し、自分の考えも伝えつつお互いの考えを受け入れながら合意形成を図っていく姿が見られ、グローバルに関わる3つの資質・能力の育成においても大きく役立った。

(3) 学びを俯瞰し汎用性を導く自己評価

ふり返りではメンタル的な変動のプロセス評価や3つの資質・能力に関わるチェックと教科等横断的な視点の項目を設定した。また、単元末にどんな力が付いたかという視点での自己評価も行った。その結果、他教科等とのつながりも意識するようになり、子ども自身が自己の学びを俯瞰することにつながった。

表3 単元前後の「グローバル」に関わる3つの資質・能力アンケート結果

4.3 単元の学習評価

単元前に「グローバル」に関わる3つの資質・能力についてのアンケートを実施した。実践後にも同じ内容のアンケートを実施し、肯定回答群の割合の変化を調べた。その結果、表3に示すよう

資質・能力	肯定回答群の割合(%)	
	単元前	単元後
クリティカルな思考力	78.8	89.4
多文化共生	85.5	94.1
コミュニケーション力	74.7	85.6

に「グローバル」に関わる3つの資質・能力について肯定回答群の割合が上がった。また、単元末の振り返りシートの「どんな力が付いたか」という項目を分析すると、どれも「グローバル」に関わる3つの資質・能力のいずれかに該当した(表4)。

表4 「学習を通してどんな力が付いたか考えよう」の回答と3つの資質・能力との関係

このことから「グローバル」に関わる3つの資質・能力の高まりがあったと考えられるとともに自己

	クリティカルな思考力	多文化共生	コミュニケーション力
子どもの回答	見る力 知らない事を調べる力 疑問を感じる力 調査力 ほんとに？力 深く考える力 知る力	協力 憧れ力 気持ち力 人の気持ちを考える力 思う力 思いやる力 受け入れる力	書く力 よく聞く力 話す力 話せる力 皆と話す力 自分の思いを伝える力

評価により子ども自身も3つの資質・能力の高まりを感じることに繋がった。

5. 成果と今後に向けて

5.1 「グローバル」な視点を取り入れたカリキュラム・マネジメント

「グローバル」な視点を取り入れた単元構想は、複数の教科等と関連させることで「グローバル」に関わる3つの資質・能力が効果的に高まる機会が増えていき、多角的に子どもにアプローチできると考えられる。また、学びを地域に発信し地域住民からのレスポンスをもらうことが、子どもにとって地域貢献に対するモチベーションの向上に影響した。「グローバル」な視点を育むためには地域との直接的なつながりが重要であることが見えた。子どもの自己評価は、学びのプロセスにおいてその子の大事にしている背景や考えの変容が読み取れ、単元前後の資質・能力に関わるアンケートと併用してカリキュラム評価に活用することもできる。

今回のように「グローバル」といった資質・能力を柱として授業構想していくと、様々な教育活動の中で統合しながら考えていくことが可能になり、実践を通して資質・能力の視点で振り返りながら、次の単元開発を構成していくことが効果的に行えると分かった。

5.2 「持続可能な社会づくり」に向けた資質・能力を育むために

「グローバル」な視点を育成する学びにおいて、地域と連携を図ることで子どもが現実社会とのつながりを感じ、社会に貢献する態度が醸成されると考える。このことから「持続可能な社会づくり」において地域住民のとの協働は不可欠であり、これからの地域の在り方を学校を中心としながら子どもも大人も地域全体で考えていくことが「持続可能な社会づくり」において肝要である。

5.3 今後に向けて

2年間を通して、今までと違う視点から学校や地域を見つめ、他地域や諸外国に出向き様々な他者との出会いを経験し、自己の更新を続けてきた。自分自身が教師として、また1人の人間として社会にどのような貢献ができるのか問い続けてきた日々だったと感じる。まさに自分自身が「グローバル」な視点を育成してきた2年間だった。学校と地域が協働し「持続可能な社会づくり」をどう実現させていくか、自分の立場から貢献できることを探っていくためにも、常に視野を広げながら足もとを見つめ直す教師であり続けたい。

文 献

- 増田寛也・富山和彦(2015)『地方消滅 創生戦略篇』中央公論新社刊
長野県飯山市(2015)「飯山市総合戦略 平成27年度～平成31年度」
和井田清司(2019)「小さな村の教育改革—g7サミットのころみに着目して—」武蔵大学
教職課程研究年報
市川洋子(2004)『総合的な学習で自己評価力をつける』明治図書出版